バックキャスティング思考で、今、何をすべきか考える

アサヒグループホールディングス会長
小路明善（こうじ あきよし）

2020年から始まった新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの日常を大きく変えたが、それと同じく、いや、それ以上にロシアによるウクライナへの侵略は、戦後の国際秩序崩壊ということに加え、社会的・経済的に、大きな影響が出始めている。

今、資本主義は大きな岐路に立っている。岸田文雄首相は「新しい資本主義」を掲げ、「成長と分配の好循環」を創り出していくために、あらゆる政策を総動員するとしている。「成長」と「分配」が国民のWell-beingを高めていくということに異論はないが、「成長」とは規模の拡大だけではなく、未来に向けて多様な価値を創造していくことであり、その多様な価値をいかに高め続けられるかが求められている。

VUCAがさらに深まる時代、これまでの経験則は通用しない。これからは、現状を踏まえ何ができるかを考えるフォアキャスティングの思考から、未来の姿から逆算して今、何をすべきかを考えるバックキャスティングの思考へと考え方を変えていくことが必要であると考えている。メガトレンドを見据え、広い視野を持って、バックキャストして考えることで、私たちが向き合う社会課題を解決する新しい取り組みが生まれてくるはずだ。

副会長就任にあたり、教育・大学改革推進委員長と労働法規委員長を拝命した。教育・大学改革推進委員会では、一昨年には初等中等教育改革提言、本年には大学教育改革提言を文部科学大臣に手交した。コロナ禍を契機として教育も大きく変わる必要がある一方、教育は国家百年の計でもある。熟慮を重ねつつスピード感を持って、産学官連携によるSociety 5.0人材の育成に取り組んでいきたい。

また、コロナ禍により、働き方改革は加速度的に進み、大きな転換点を迎えた。労働法規委員会においては、これまでの柔軟な働き方を推進し生産性を高めるという段階から、エンゲージメントを向上させ成果を出す段階に軸足を移して活動していきたいと考えている。

混迷を極める世界情勢の中、副会長という重責を担うことになり、身の引き締まる思いである。会員企業の皆さまとともに、日本経済が力強く成長できるよう覚悟を持って取り組んでいきたい。